



## 原発「GX法案」を廃案に

### 「福島忘却宣言」許さない！

#### 姑息な手法の「束ね法案」

GX(グリーン・トランスフォーメーション)「脱炭素電源法案」は、脱炭素(グリーン)を言いながら、実質は原発推進への変革(トランスフォーメーション)をねらう原発「GX法案」に他なりません。

老朽原発の60年超運転を可能にする電気事業法「改正」をはじめ、原子力基本法、原子炉等規制法(炉規法)、再処理等拠出金法、再生可能エネルギー特別措置法など5つの法「改正」案を「束ね法案」として出してきました。

一気に提出し、審議を最小限にして数の論理で押し切ろうという「姑息な」意図がありあります。

#### 衆院通過し参院へ

4月21日、東京新聞は社説で「脱炭素電源法案 フクシマ忘却宣言だ」と批判しました。脱原発諸団体の国会前行動も行われましたが、「原発」・「軍拡」ともに推進・容認の勢力が多数を占めた衆議院は、4月27日、この束ね法案を通過させました。

#### 廃案めざして全力を

参議院に向けて、大至急で集中した行動が求

められます。これまで私たちが工夫し取り組んだことのある様々な方法を駆使しましょう。ハガキや文書要請、個人や団体から、あらゆる取り組み方に挑戦しましょう。子々孫々にまで危険を及ぼしてはならない！この思いを広げきましょう。

#### 脱原発のドイツと共に

4月15日、ドイツは稼働中の3基の原発を停止させ、脱原発を達成しました。土台にあるのは、チェルノブイリ原発事故や福島原発事故の解決出来ない被ばく問題です。私たちもドイツとともに、脱原発の道を切り開きましょう。



最後に運転停止した3つの内の一つ、イーザル2原発

伊方原発をとめる会

## 第13回定期総会

2023年5月28日(日) 13:30 ~ 16:30

松山市男女共同参画推進センター/三番町6-4-20 / Tel089-943-5776  
コムズ5F 大会議室

記念講演

海渡雄一 弁護士

福島原発事故の責任をめぐる闘い  
原発GX法案をめぐる闘い  
こども甲状腺がん裁判の現段階

総会

伊方原発をとめる弁護団からの報告  
活動報告・会計報告  
活動方針・予算案・役員案の提案  
質疑討論

目次

- 1P 原発「GX法案」を廃案に
- 2・3P 第32回、33回口頭弁論報告
- 4P 3・11各地の取り組み/守田講演
- 5P ドイツの再エネ活用/ミニ学習会
- 6・7P インタビュー記事(伊東英朗氏)
- 8P 四電めぐる動向/会費、お知らせ

伊方原発運転差止訴訟

## 第34回口頭弁論 5月23日(火)

原告の方は12:00集合。原告席を抽選  
傍聴の方は12:30集合。

(裁判所の傍聴券配布は12:45~13時の見込み)  
証人尋問 上岡直見さん(避難問題)

# 伊方原発運転差止訴訟 いよいよ終盤戦に 2回の口頭弁論 開催

松山地方裁判所にて3月14日に第32回、4月20日に第33回の口頭弁論が行われた。4月以降は「証人調べ」という形となり、今後は5月23日、6月20日、8月22日に証人調べが予定されている（9～11月は日程未定）。

## 第32回口頭弁論

### 原告二人が意見陳述

弁護団から2つの準備書面103（地震関係）、104（火山関係）が提出され、続いて二人の原告の意見陳述が行われた。



陳述する原告を先頭に第32回口頭弁論に向かう

### 北村親雄さん

#### 「後世に誇れる判決を」

松山在住の北村親雄さんは、全国で大規模地震が頻発しているなか、一人も取り残さない避難ができないならば今すぐ原発の運転を止めなければならない。命の尊さは何ものにも代えがたい。次世代への責任として、原発の廃炉を求めるとして、裁判官には熟慮を重ね倫理に基づく後世に誇れる判断をしてほしいと強く求めた。

### 垂水正和さん

#### 「宗教者として命を脅かす原発に反対」

松山市・観音寺住職の垂水正和さんは、チェルノブイリ原発事故後に夫婦で原発問題の学習を深めていき、寺として脱原発に取り組んでいると陳述した。宗教者として「核兵器も原発も地球上に存在してはならない」という「絶対に譲れない真実」を掲げて、命を脅かす原発に反対

すると語った。国が誤った方向に動く今、司法が正しい判断を下すしか原発をとめる手立てはないと裁判官らに熱く訴えた。

### 原告側証人9人の採用決定

閉廷後の報告集会では、中川創太弁護士、広島県の定者吉人弁護士、原告2人が壇上に上がった。中川弁護士より、①証人申請の人数について被告側との攻防があったが「直接に証人から話を聞いてほしい」と強く要望した結果、原告側10人の申請に対し9人が採用された、②被告側の証人は4人（専門家2人と四電従業員2人）の予定との報告があった。また、今後は午前午後と連続しての開廷もありうるため、原告・支援者は今まで以上に積極的に傍聴に参加してほしいとの要請もあった。

## 第33回口頭弁論

### ようやく「証人調べ」へ

### 渡部寛志さん

#### 「福島第一原発事故で故郷を追われて」

提訴から12年を経てようやく証人調べに入った。中川創太弁護士による90分にわたる主尋問の中で、福島事故の愛媛への避難者・渡部寛志さんは次のように証言した。

3世帯同居の専業農家だったが福島第一原発事故が起きて家族7人が故郷を追われた。生活の糧の田畑を奪われ、鶏470羽は全滅、淡水魚養殖も断念。妻は職を失い、子ども達は故郷で育つことができなくなった。家族4人で愛媛に避難した。それぞれが今まで大事に培ってきた全てを原発事故に奪われた。

2016年に警戒区域が解除されたが、子ども達を帰すことは心配であり、また愛媛で農業も始めていた。福島への帰還について悩んだ末、田植えの4～5月と稲刈りの10月に福島に戻

り、あとの9か月は愛媛で生活するという選択をした。が、妻の理解が得られず、これがきっかけで離婚に至り、今は次女と二人で愛媛と福島の2拠点生活を送っている。

3・11は絶対に起きてはならない事故だった。見えない放射性物質により、多くの人が生きる場を失い、家族を引き裂かれ、営みを断ち切られ、本当に悔しい思いをしている。元の福島での生活を戻してほしいと切に願う。福島原発事故の原因も未だ解明できていないのに、伊方原発をどうして稼働できるのか。伊方原発はとめていただきたい。

主尋問の後に被告の四国電力側は反対尋問の権利を放棄し、右陪審の裁判官から、避難時には健康だった祖母が認知症に陥っていった経過についての補充尋問があった。

## 長生博行さん 「避難計画は机上の空論」

今川正章弁護士による30分の主尋問の中で、伊方町在住の長生博行さんは以下のように証言した。

伊方町に生まれ、養蜂業を営んでいる。南海トラフ地震、中央構造線の存在、また、プルサーマル運転と、伊方原発には常時不安を感じている。事故が起これば複合災害となる。消防団員として避難訓練に参加するが、急斜面の生活道路は落石、倒木が日常的に起こり、高齢者の誘導も難しい。実情を考えれば「避難計画」は机上の空論としか思えない。地元で行政に逆らって原発に反対する辛さもある。しかし、福島事故の後始末もできていない中、伊方3号機を動かすべきではない、次の世代のために、原発稼働はやめてほしい。

四国電力は長生さんに対しても反対尋問を行

## 来年7月、プルサーマル「中断」に

四国電力は、これまで使用済みの核燃料の再処理とMOX燃料（プルトニウム・ウラン混合酸化物）の加工をイギリスとフランスに委託していた。が、MOX燃料の調達ができなくなったとして、来年7月にはプルサーマル発電を中断する見通しだという。

2010年3月から、反対を押し切って危険なプルサーマル発電は始まったのだが、核燃料サイクルはまったく破綻している。処分の見通しが全く立たない使用済みMOX燃料を作り出すプルサーマルに何の意味があったのだろうか。



第33回口頭弁論に向かう証人と弁護士、支援者

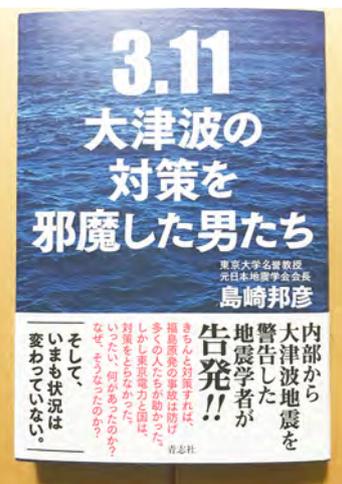
わず、裁判長と右陪審からそれぞれ、避難路、船による避難訓練についての補充尋問があった。この中で平地面積が小さく高齢者が多い伊方町での避難の困難さがより如実に解明された。

なお、被告・四国電力側が2人の原告側証人に対する反対尋問の権利を行使しなかったことは、四電として二人の証言の真実性や信用性を疑わせるような反論の材料が無かったこと、つまり、証言が事実に基づく真正だと認めたことに等しいと考えられる。

## 傍聴席を満杯に!

閉廷後の「締め括り」挨拶で、薦田弁護団長より「傍聴席を満杯にしてほしい」との強い要請があった。

最近裁判所に駆けつける支援者数は減少傾向が顕著で、四電関係者を含めて今回、一般傍聴席は2名しか上回らない応募者数だった。裁判所へのアピールを強めるために、一人でも多く傍聴に駆けつけて下さることを切望します。



大津波地震を警告した地震学者が内部から告発  
大津波は予測されていた。なぜそれに対策できなかったのか。登場人物は全て実名。事実が明らかに。

### 大洲・今治・松山で「伊方原発の廃炉を求める 3・11 愛媛集会」

3月11日、松山市の坊っちゃん広場では、150名が参加。国鉄四国トレインズの皆さんの歌の後、須藤昭男・伊方原発をとめる会事務局長が挨拶。薦田伸夫・伊方原発をとめる弁護士団長からは裁判への協力要請があった。

続いて、垂水正和・観音寺住職、中村圭司・愛媛県職員労働組合委員長、大野恭子・原発さよなら四国ネットワーク、そして来島頼子・新日本婦人の会愛媛県本部会長の4人の方々のスピーチがあった。

その後、集会宣言の採択、参加者全員によるパネルアピールを行った上で、愛媛県庁前までデモ行進した。

大洲市では、たいき産直市「愛たい菜」前で約20名で訴え、国、四国電力に申入書を郵送、市長・市議会議員にも申入れを行った。

今治市では10日に市役所前・広小路で、18名が「伊方原発再稼働反対」を訴えた。



坊っちゃん広場での「原発ゼロ」アピール



大洲市の産直市前でのアピール



今治市の市役所前での宣伝行動



松山市での3・11デモ

#### 続報

### 「福島をくり返すな！原発回帰に黙ってられない2・25講演会」から

守田敏也さんは、原発事故から岸田政権の矛盾だらけの原発回帰政策、恩師である宇沢弘文さんの社会的共通資本論を紹介などの後、核燃料廃棄には10万年もかかり、ずっと危険がつきまとう。これは「未来世代への暴力」であると述べた。

核産業に対して脱原発を進めるために大事なものは、被曝の危険性を訴えることであり、私た

ち市民が自信をもって脱原発運動を継続していくことこそ力になると締めくくりました。

また、会場で守田さんの国連本部行きのためのカンパ袋をまわし、3万余円が集まりました。



# 「原発ゼロ」のドイツは再エネ徹底活用へ

ドイツでは再生可能エネルギーを徹底して活用するための対策が取り組まれています。

同国の4つの大手送電事業者は、2030年までに半導体による電力変換装置を70台導入します。再エネ利用を徹底する大規模な対策です。

また、ドイツ南西部の送電会社・トランスネットは、変電所内に世界最大級の「電力蓄電施設」の建設に着手しました。出力25万キロワット。送電系統に数ミリ秒で出力対応できます。発送電を効率化し「電気代も抑制する打開策となる可能性」、他の「模範となる可能性」についても報じられています。

右上の写真は、ドイツの北部と南部をつなぐ「高圧直流送電」設備（HVDC）に関するものです。昨年3月、かなりの重要部分を日本企業が受注して建設がスタートしました。



直流で大容量送電を行う設備（独にて日本企業が受注）

## 技術があるのに活用しない日本政府

日本国内には実用化された蓄電池変電所もあり、再エネ活用の高い技術があります。しかし、日本政府はこれらを積極的に生かそうとせず、原発企業・財界の描いたGX路線どおりに、原発を永続させようとしています。

## 第2回、第3回 ミニ学習会報告

### 再生可能エネルギー100%実現のために

伊方原発をとめる会は、2月28日（第2回）、4月25日（第3回）、ミニ学習会を開催しました。愛媛県でも2050年に温室効果ガス排出実質ゼロの「脱炭素社会」を目指すと表明しており、「エネルギーの低炭素化の推進」のために、バイオマス発電・熱利用事業等の推進や、分散型エネルギーシステムの普及・啓発を掲げていますが、本気度が見えてきません。

ミニ学習会では、地球に優しく持続可能なまちづくりに向けて、再生可能エネルギー100%を実現するための課題について学びました。

第2回学習会「四国における電力脱炭素化を実現するために」では、和田幸さん（とめる会事務局次長）が、エネルギーの安定供給や、四国電力の再エネ「出力制御」で太陽光発電の電気が捨てられている現状をなくすために、蓄電池変電所、蓄電所の必要性を提案しました。

第3回学習会「愛媛県における再生可能エネルギー事業について」では、農業経済学が専門の村田武さん（元愛媛大学農学部教授、金沢大学・九州大学名誉教授）が報告。

愛媛県内で計画が進められている、宇和島市津島町御内の金比羅川小水力発電、今治市乃万地区の営農型太陽光発電システム（ソーラーシェアリング）などを紹介しました。併せて、メガソーラーや大型風力発電、海外からの輸入



率直かつ、じっくりと語らう（第3回ミニ学習会）

原料に頼るバイオマス発電事業など、環境保全上に問題のあるケースも紹介しました。

村田さんは、四国電力をはじめとする大企業や中央の資本が儲かる再エネではなく、地域経済が潤い、エネルギーのムダをなくし、農業・林業の再生にもつながる再エネを市民の力でつくりたいと呼びかけました。

## アメリカで伝えたい放射能の恐ろしさ

映画監督・テレビディレクター 伊東英朗（いとう・ひであき）さん

伊東英朗さんは、地元愛媛のテレビ局でディレクターとして活躍。2004年から太平洋核実験の漁船被ばく問題の取材を開始し、ギャラクシー賞、日本民間放送連盟賞、日本記者クラブ特別賞、文部科学大臣賞など数々の賞を受賞。このほど完成試写会を行った映画「放射線を浴びたX年後Ⅲ サイレント・フォー ルアウト」について伺いました。



伊東英朗さん

### 幼稚園教諭として16年

問：ご出身地や生年月日は？

伊東さん：愛媛県上浮穴郡久万町（現在の久万高原町）で1960年9月に生まれ、高校卒業まで過ごしました。

問：幼少年期を、どう過ごされましたか？

伊東さん：音楽、特にクラシックが好きで、トランペット奏者になりたくて高校生の時は、個人レッスンを受けていました。しかし、3年の時に、中学生の優れた演奏を聞き、その瞬間に挫折感を味わいトランペットを諦めました。そんな時、父親の勧めもあって、幼児教育の道に進みました。その後、久万町（当時）の町立幼稚園に教諭として就職しました。

問：当時は幼稚園の男性教諭は非常に少なかったのでは？

伊東さん：そうです。珍しがられることが多くて、地方紙やテレビ番組に取り上げられたりもしました。研究会の講演に招かれることもよくありました。

問：ご結婚は？そのお相手は？

伊東さん：保育園から小中高校と同級生だった幼なじみの保育士と、1984年に結婚しました。子どもは3人ですが、いずれも成人して別居しています。

### 突然の退職そして上京

問：言うなれば順風満帆だったのに、中途退職されたのはどうしてですか？

伊東さん：17年目に教育委員会への異動の内示があったからです。その場で退職を申し出ました。幼稚園教諭として採用され、天職だと思って仕事していましたが、子どもたちに向き合っている仕事ができないのであれば、意味がないと思ったからです。ただ、いきなり退職されても困ると言われて、1年間教委の仕事をしてから退職しました。

問：幼稚園で勤務しながら、趣味としてのビデオ映

像づくりをし始めたそうですが、ビデオ・アートとはどんなものなのですか？

伊東さん：ドキュメンタリーとは対極の表現方法で、作り手の感性にもとづくもので現代美術の一つと位置づけられています。仕事の傍ら趣味として、美術展に出品したり、海外の国際映画祭へ招待上映して頂いたりしていました。

問：幼稚園退職の頃には、その方面での将来像を描いていたのでしょうか？

伊東さん：そうですね。アメリカでミュージックビデオを作りたいと思っていました。公務員を辞めた後は、アメリカへの足がかりとして家族と3年間だけと約して、東京へ行きました。

問：どんなお仕事を？

伊東さん：3年間で9年間分の経験をしたくて人の3倍働くことにしました。睡眠は2時間と決め、テレビ番組の制作会社や音楽事務所、流通関連の仕事をしました。

### テレビ・ディレクターの仕事へ

問：3年後に久万に戻ったときの転職の見込みは？

伊東さん：家族との約束で戻りましたが、就職先の見通しは、まったくありませんでした。たまたま帰郷の挨拶にいった南海放送に縁ができました。最初は雇用契約もなかったのですが、3年後に子会社であるRNBコーポレーション株式会社の社員になりました。

問：そこから南海放送のディレクターとしての仕事が始まるのですか？

伊東さん：実際にはその前からですが、その後は出向先として南海放送で仕事をし、2021年9月末に定年退職しました。

問：核実験の被ばくを描いた「X年後」シリーズについて教えてください？

伊東さん：高知の高校生たちが、被ばく船員の調査をしていたことを2004年に知りました。第五福龍丸以外に、延べ992隻もの漁船や貨物船、捕鯨船が被ばくしていると知って驚きました。どうしてこれが報道されていないのかと不思議でした。

問：そこで、指導教諭の山下正寿先生を訪ねていくのですねえ。

伊東さん：はい。私の住む松山から高知までは車で3時間半ほどですから、被ばくした乗組員の取材は、先生の自宅を取材基地として再三利用させてもらい



クラウドファンディングで用いた画面



通訳同伴での取材

ました。

**問い：**取材を続ける中で感じられたことは？

**伊東さん：**被ばくした乗組員が、40～50代でどんどん亡くなっていることを知り、放射能の恐ろしさを改めて痛感すると共に、誰一人補償されていないことに憤りを感じました。広く知らせることがメディアの役割、自分の責務とも思いました。

## テレビと大違いの映画

**問い：**2004年の「わしも死の海におった」から次々とドキュメンタリーのシリーズ番組を送り出しながら、2012年には映画「放射線を浴びたX年後」を制作・公開されましたが、伊東さんにとってテレビと映画とで違いがあるのでしょうか？

**伊東さん：**全然違います。テレビでは視聴者の反応が分かりません。番組に共感を持って下さったのか、それとも反発されたのかなど何も分かりません。映画の場合、上映会場でみなさんの反応を直接感じることができますし、会場の知らない人同士も連帯感をもつことができます。

**問い：**その後2015年には映画「放射線を浴びたX年後2」を制作し、このほど「放射線を浴びたX年後」の第3弾として「サイレント フォールアウト」という映画を完成させたそうですね。フォールアウトとは放射性降下物のことだそうですが、今回の映画の内容や狙いを教えてくださいませんか。

**伊東さん：**放射性物質は生物にとって大変有害ですが、色も形も臭いもなく人間の五感では感知できません。しかも、低い線量の場合、将来的な被害があっても「直には影響がない」ので、厄介です。アメリカでは、核兵器開発の結果、大陸が、その放射性物質によって長期にわたり汚染し続けました。深刻な状態ですが、そのことがアメリカ国民に知らされていません。

## アメリカ全土の汚染

**問い：**核実験による「死の灰」のことですか？

**伊東さん：**そうです。米西側のネバダ核実験場で100回の大気圏内核実験が、さらに南太平洋上でも100回以上の大気圏内核実験(水爆実験を含む)が行われ、それらの「死の灰」が風で運ばれ、アメリカ大陸に降り注ぎました。

1950年代後半、アメリカ大陸が放射能汚染していることが噂となり、女性たちは、核実験の影響が子どもたちに及んでいるのではないかと考えるようになりました。生え変わる乳歯を調べれば、被ばくしているかどうかをわかった女性たちは、セントルイスを中心として、乳歯の提供を全米に呼びかけ30万本を超える乳歯を集めたのです。(実はその中に日本から送られた乳歯も含まれています)

その結果、子どもたちの放射能汚染の実態を暴いたので。その報告書は、ケネディ大統領(当時)を動かしました。1963年8月5日、ケネディ大統領は、核実験禁止条約に署名。アメリカ、ロシア、イギリスの大気圏内核実験は終結したのです。映画は、この運動の関係者へのインタビューを中心にしながら、現在のアメリカ大陸の放射能汚染の実態を描いています。

**問い：**制作費はどうされたのですか？

**伊東さん：**自己資金ではとても賄えず、クラウドファンディングでご支援下さった約1500万円に加えて、文化庁の助成金500万円やご寄付など2200万円で、やっと制作出来ました。

## アメリカでの上映へ

**問い：**映画のねらいは、アメリカ国民に核兵器の禁止をよびかけたいのですか？

**伊東さん：**いいえ、必ずしもそうではありません。銃で独立を勝ち取ったアメリカでは核兵器はアイデンティティでもあります。「核兵器廃絶」の声は簡単に通じないはずです。僕は、ただ事実を知ってもらいたいのです。核兵器開発の過程で、アメリカ大陸が放射能汚染され、そのことが知らされないまま国民が被ばくしたという事実を知ってもらいたいのです。一人ひとりが事実を知り、考え、最終的には、議会で議論してほしいのです。そのためにアメリカで上映する必要があるのです。

**問い：**5月には訪米されるとか、アメリカでの計画や国内の上映予定は？

**伊東さん：**6月にセントルイスやソルトレイクシティで上映します。その後は、今のところ未定です。私自身、会場で観客と膝を交えて話したいと考えています。ただ、上映活動のための費用はまったく目処がたっていないので、これからの課題です。

**問い：**心ある方々に募金のお願いをされたらどうでしょうか？

**伊東さん：**そうですね。もしかすると、ご支援のお願いをすることになるかも知れません。その際にはぜひご協力頂けますとうれしいです。



セントルイスで取材中

## インタビューを終えて

ビキニ被ばくを追い続けるドキュメンタリー番組に、放映当時から強い関心をもって視聴していました。その後の映画X年後シリーズを経て、今般は米国民向けの映画をつくり北米大陸で上映を目指すだけでなく・・・その発想に驚かされるとともに、ぜひ成功して貰いたい。については、このインタビューが多少ともお役に立てればと願っている。(H)

# 不具合承知で従来型燃料を使用！！ 四電体質変わらず

## 「過去にも漏洩」承知で！

伊方原発3号機は、今年2月23日から定期点検で停止中。5月25日に送電再開、6月19日検査終了予定とされている。

定検中の調査で、昨年3月に確認された原子炉冷却水の放射性ヨウ素濃度の上昇は、燃料棒2本に微小な穴が開いていたことが原因と推定した。

四電の報告書概要には「現在当社が保有する再使用可能な従来A型燃料(40体)については、過去にも漏えいがあったこと、また、累計で3体の燃料で漏えいが発生したことを踏まえ、今後、使用しない」とあり、過去の不具合を承知で使っていたことになる。

前回、2019年から20年にかけての定期検査の際には、「事業者の深刻度や捉え方が少し軽す

### (3) 対策

・現在当社が保有する再使用可能な従来A型燃料(40体)については、過去にも漏えいがあったこと、また、累計で3体の燃料で漏えいが発生したことを踏まえ、今後、使用しないこととします。

2023/4/10付四電の「報告書概要」より

## 会費とカンパの訴え

今回、2023年度分の会費納入のお願い文書を同封しております。各年度に金額を記しているのは入金実績です。空欄は未入金です。

年度当初は、新年度会費が未納のため、役員個人の立替で乗り切っている実情です。

年会費1口 個人 1,000円 / 団体 3,000円  
/ 学生 500円

【会費送金先】宛名は、「伊方原発をとめる会」

■郵便振替 01610-9-108485

■ゆうちょ銀行 通常貯金 記号 16190  
番号 17866721

[ゆうちょ銀行以外から] ゆうちょ銀行  
六一八支店 普通預金 1786672

■伊予銀行 本店営業部 普通預金 4679997

## いっそうのご支援をよろしくお願ひします

\* 裁判資料(訴状、原告意見陳述、原告準備書面、書証)など、伊方原発をとめる会ホームページに掲載。ダウンロードできます。

\* お知らせ・ご案内を会員にメールでお届けします。配信ご希望の方は、

ikata-tomeru@nifty.com まで。

\* ホームページを充実させ、情報の迅速な発信に努めています。ぜひ、ご覧下さい。

URL : <http://www.ikata-tomeru.jp>

ぎるのではないかと当時の原子力規制委員会の更田豊志委員長に厳しく指摘されるほどの深刻なトラブルが連続して発生した。四電の安全に対する企業体質は改善されていない。

## 再エネ捨て去る四電「出力制御」

原発は停止していても四電の電力は十分に余っている。四電は、連系線を使って他電力会社へ売電をしつつ、3月4日から月の半分は太陽光など再エネの出力制御を続けている。原発は動かす必然性がないどころか、再エネへの転換の足を引っ張っている。

## 四電の不正閲覧に業務改善勧告

4月17日、経済産業省の電力・ガス取引監視等委員会は四電に業務改善勧告を行った。四電社員が、子会社の四電送配電を通じて、新電力の顧客情報計1万1413件を、昨年4月1日から今年1月15日の間に不正閲覧していたことによる。

電力自由化にあたって、中立な立場で送配電網を運用するよう法律で義務付け、電力側の情報閲覧はあり得ないはずだった。断じて許されない！ 国は送配電会社を完全に独立させ、発送電分離を徹底すべきだ。

## 今後の日程・行事案内

- ▼ 5/21 (日) 伊方原発このまま廃炉！ 四国同時アクション 12:00 大街道一番町入り口  
(主催：原発さよなら四国ネットワーク)
- ▼ 5/23 (火) 第34回口頭弁論 松山地裁  
原告12時集合(13:30開廷)  
(詳細Iページに掲載)
- ▼ 5/28 (日) 13:30～ コムズ大会議室  
伊方原発をとめる会第13回定期総会  
(詳細Iページに掲載)
- ▼ 6/20 (火) 第35回口頭弁論 松山地裁  
原告9時、一般9:30集合(10時開廷)
- ▼ 8/22 (火) 第36回口頭弁論 松山地裁  
原告9時、一般9:30集合(10時開廷)
- ▼ 伊方原発いらん!! 松山市駅前定例アクション  
6/7、7/5、8/2 (水) 17:30～18:15

【編集後記】四電は、過去に「従来型」燃料棒で穴あきがあったのに、取り替えず使っていた。「今後は使わない」としたが、あきれた感覚だ。愛媛県のチェックカの弱さも問われている。(W)